**防火消火に関わる活動マニュアルの制定について**

**状況説明**

次回隊長支隊長会議に、防災隊本部事務局活動マニュアル整備担当として「自主防災隊活動　　　マニュアル制定計画」を提案していますが、簡単に言えば今期のうちに必要な活動マニュアルを

あらかた整備しようというものです。

以下その計画を少しだけ先取りして、防火消火活動に関する活動マニュアルつくりについて投げ

かけます。

まず防火消火活動に関する活動マニュアルの構成イメージですが、以下の２つを考えています。

Ａ．個別マニュアル

Ｂ．非常時における防災隊活動隊員の行動（仮称）

Ａ．は個別テーマごとに作るマニュアルで、活動隊員がそれを見て日頃の活動をしたり、また活動

隊員のみならず隊員一般がそれを見ながら非常時への備えをするためのもの。ここで備えとは、　機材器具の配備や知識の習得、技能のトレーニングなどを指します。

そしてＡとして今必要だと考えているものに、

①街頭消火器管理マニュアル（進行中）

②通電火災防止法（仮称）

③火災発生時の心得＆住宅用消火器・街頭消火器などによる初期消火の方法（仮称）

④スタンドパイプによる消火の方法（仮称）

があります。

Ｂ．は、日頃Ａ．に習って備えをしておくことで非常時には必要な行動ができるようになっている前提で、非常時には組織の中のどういう人はどうすると簡潔な表現で、時間経過に沿った防災隊組織

全体の構成員の行動を規定するものとして考えています。

**皆様への投げかけ**

１．防火消火にかかわるＡ．個別マニュアルとして、他に必要なものがありましたら挙げてください。

２．上に挙げた②、③、④でも、他に必要と思われるものでも、マニュアルの素案を自分が作りたいという方（個人でもチームでも）がおられれば手を挙げてください。

３．③、④のマニュアルは、それぞれ次ページ以降にお示しする記事をベースにして作ると楽だと　思いますが、それらに含まれておらず追加すべき情報やご自身のお考え（行動にあたっての

心得・実際上の注意・その他）があれば、ご提示ください。

以上はご自身のほかに、支隊の班員の方などにもあたっていただければ幸いです。

そしてメールでやり取りできるものはそのようにし、不足分は次回防火・消火専門班会議にて話を

したいと思います。

**１**

４．③火災発生時の心得＆住宅用消火器・街頭消火器などによる初期消火の方法（仮称）の素材　として下に挙げたものには、特に消火にコツの要るものとして油なべ、石油ストーブ、衣類、電気製品、風呂場、カーテン・ふすま・板壁を挙げ、消火の方法も消火器に限らずシーツや鍋の蓋を　使ったり、またエアゾル式簡易消火具（３ページ）や三角バケツ（５ページ）を使う方法なども紹介

されていますが、防災隊活動マニュアルにはどこまで盛り込むべきか？

またとりあえず③火災発生時の心得＆住宅用消火器・街頭消火器などによる初期消火の方法（仮称）とひとまとめにしてありますが、適切に分割した方が使いやすいかも知れません。「火災　発生時の心得」「住宅用消火器・街頭消火器の操作法」「初期消火における注意点」「燃えている

ものによって異なる消火にコツ」など？どのように分割するのが使いやすいか？

４．は次回防火・消火判別専門会議にてディスカッションしたいと思います。

**活動マニュアル作成のための素材**

③住宅用消火器・街頭消火器などによる初期消火の方法は、**添付する**

**火災発生時の心得＆住宅用消火器・街頭消火器などによる初期消火の方法（仮称）**　**素材**

をご覧ください。ただ、素材を並べただけなので、そのおつもりで見てください。

（「火元別初期消火のコツ」などは同じようなものが重複しているように見えますが、私も未だよく読みこんではいませんが、細かく見ると異なっているところもあるようなので、あえて重複させて

おきます。）

④スタンドパイプによる消火の方法は、以下のａ．ｂ．ｃ．はお手数ですがｗｅｂサイトを開けて見てください。ｄ．は必要なところだけ抜粋して下に転記しておきます。

ａ．**スタンドパイプＹＯＮＥ**（ヨネ株式会社「単口引上式・エルボ離脱式・双口バルブ付」）

[www.yone-co.co.jp/jp/community/co\_stand/2011021601.pdf](http://www.yone-co.co.jp/jp/community/co_stand/2011021601.pdf)

をご覧ください。

ｂ．**消火栓利用型市民消火隊活動要領**（PDF：2008KB） - 横須賀市

[www.city.yokosuka.kanagawa.jp/7410/.../katudouyouryou.pd](http://www.city.yokosuka.kanagawa.jp/7410/.../katudouyouryou.pd)...

をｗｅｂサイトを開けてご覧ください。

ｃ．**スタンドパイプ消火資機材を使用した初期消火に係る手順書**

[www.city.yamato.lg.jpのweb](http://www.city.yamato.lg.jpのweb)サイトを開けて、ホーム＞くらしのガイド＞いざというときに＞防災＞市の取組＞スタンドパイプ消火資機材導入へを開けると、記事の下の方に「関連資料」として載っています。

ｄ．**初期消火器具の取り扱い** (PDF形式：447KB) - 佐用町

[www.town.sayo.lg.jp/cms-sypher/open.../0000001710.pdf](http://www.town.sayo.lg.jp/cms-sypher/open.../0000001710.pdf)

**から必要なところだけ下に抜粋しておきます。**

**２**

**「初期消火器具の取り扱い」からの抜粋**

※注意していただきたいこと

○消火栓の蓋は鉄製でとても重たくなっています。足を挟んだり腰を痛めないよう注意して　　ください。

○送水するのは、ホースが完全に延長して筒先担当者の「放水始め」の合図によって開始　してください。ホースの延長途中に水がきますと、負傷する恐れがあり、また、これ以上のホース延長ができなくなります。

○筒先からの放水圧力は高からず、低からず常にベストの水圧を維持するよう水圧の調整（開閉器で開閉栓を開けたり閉めたりする）に心がけてください。

○放水は、消防隊が到着するまでの間です。消防隊が到着したら送水を停止して、あとは　消防隊にまかせてください。

※注意していただきたいこと

○ホースは、消火栓側（元）にメス金具が、火災現場側（先）にオス金具となります。よくあわててメス金具をもって走る人がいますが間違わないようにしてください。

○ホースとホースの結合(メス金具とオス金具の結合）は、「カチッ」と音がするのを確認する　まで確実に行ってください。

○ホースの延長は、折れ曲がりやよじれのないように延長してください。

○消火栓から火災現場までの距離によって、延長するホースの本数を決めてください（いつも３本を延長するのでなく、１本又は２本の方がベストの場合があります）。必要以上のホースを延長しますと、ホースがからまるなどして水が出なくなります。

※注意していただきたいこと

○放水は絶対に屋外から行うこと。まちがっても建物内部に入らないでください。落下物などがあり大変危険です

○放水圧力が高くて一人で持ちこたえられないときは、筒先は放さず、地面に伏せるなどして補助者が来るのを待ってください。

○放水が有効に行えるよう、筒先圧力を「上げる･下げる」の指示を補助者に行ってください。

○放水は、燃えている物体（炎に向けて）に行ってください。煙に放水しても素通りするだけです。

○開閉操作はゆっくり行ってください。水撃圧（ウオーターハンマー）により管路や設備などへの圧力が急変し，悪影響がでます。

※ご注意

○消防演習で消火栓をご使用の場合には、消火栓使用届をご提出ください。

（消火栓を使用されると広範囲な地域で、家庭の水道水が濁るなどの事態が生じる恐れがあります。）

**３**